

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0370900573
法人名	社会福祉法人 柏寿会
事業所名	福光園グループホーム フクちゃんハウス
所在地	020-0901 岩手県一関市真柴字岩ノ沢91-19 (電話) 0191-31-2500

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	12月12日

【情報提供票より】(19年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	9人, 非常勤 -人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 他実費
敷金	有(円)		(無)
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2			
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2			
年齢	平均 87歳	最低	77歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一関病院(総合)、秋保クリニック(精神科)、山本歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>市街地や民家からは少し離れた宮城県境に程近い緑の中に、母体である特別養護老人ホーム等、関連施設とともに立地している。</p> <p>開所は平成16年3月であるが、当初から介護度の高い方を受け入れており、現在、要介護4が2人、要介護5が3人であり、入居者のうち身体ケアの必要な方が6人である。入居の必要な方は介護度の高い方でも引き受けるとの姿勢で運営しており、ターミナルケアを見据えたサービスに取り組んでいる。</p> <p>職員の勤務も夜勤2人体制を採用しており、夜間入浴を実施するなど、積極的な姿勢がうかがえる。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価は全てできているであり、特に指摘された事項はなかったが、日々のサービス提供活動の中での職員の気づきについて、職員会議で取り上げ改善に向けて話し合っている。今年度は新たに「研修委員会」を立ち上げて活動している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については、職員個々人が最初に取組み、更に職員を2班に分けてディスカッションした後に、全体の話し合いで統合した。その結果、職員が同じ方向を向いていることが確認できたので、〇印を付した項目について今後一丸となって取り組む予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、行政(地域包括支援センター)、前地区長、ボランティア代表のほか、利用者及び家族、全職員で構成し、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの活動内容及び行事等のほか、自己評価や外部評価結果等を報告し、意見を頂いている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>投書箱を玄関に設置のうえ、案内を表示し用紙も準備しているが、これまで苦情や相談等が投書されたことはない。年に2度家族アンケートを実施し、家族の意見や要望を取り上げるようにし、職員会議においてその内容について話し合い、対応のしかたや改善等に努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域交流をするための立地条件は必ずしも良好とはいえないが、幼稚園との相互訪問、製作した雑巾の小学校への寄付等を行っているほか、行事等への誘いがあった場合には、可能な限り対応することとしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員全員で考えたものであり、地域密着型サービスとなつてからは、地域を盛り込んだ理念を追加している。理念は、ホームの玄関に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいた重点目標を設定のうえ、事業計画書に記載し、上期・下期で実施状況について、職員会議において評価している。	○	理念の見直しや職員会議での話し合いなど、しっかりとした取組がなされているが、日常的な確認方法を工夫し実行することで、理念の共有が更に徹底されるよう期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園等から行事等への誘いがあれば積極的に出向しているほか、雑巾を製作し小学校へ寄付している。	○	グループホームの立地条件や、入居者の重度化など、地域交流の難しさはあるが、蓄積した認知症介護に関するノウハウ等を地域に還元することなど、工夫を重ねることにより、地域との関係を高めていくことが期待できる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価では特別な問題等はなかったが、職員会議において改善点等を話し合っている。今回の自己評価については、職員各自が個々に行つたうえで、ホームとしての自己評価をまとめている。	○	改善点等については、月1回の職員会議において具体的方策等について話しあっているが、評価の意義の理解と活用について、ステップアップするために更に学習を進めることを望みたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員は、行政(地域包括支援センター)、前区长、ボランティア代表、入居者家族のほか、全入居者及び全職員で構成している。会議は2ヶ月に1回開催し、運営状況、自己評価・外部評価等の報告をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの研修報告会には地域包括支援センターの職員にも出席を要請し、ホーム運営に関わる機会を多くつくることができるように取組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌「フクちゃんたより」を毎月発行し、入居者の様子を知らせている他、変化のあったときには電話を中心に報告をしている。金銭関係は、面会時に帳簿・領収書で報告している。また、運営推進会議時にも報告の機会はあるが、出席家族は固定化されている状況にある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情等の受付について、窓口に掲示しているほか、投書箱も設置しているが、意見等はこれまで寄せられていない。相談等の内容は、医療関係が中心である。年2回、家族に対してアンケートを実施し意見の拾い上げに留意している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体での異動は避けられないが、グループホームについては、馴染みの関係に大きな影響が出ないように配慮されている。異動の場合には職員本人から事前に話すほか、管理者も事情を話すようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する外部研修(日総研のプログラム等)へ積極的に参加させているほか、法人内及びホーム内で計画的に研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南ブロック研修は2ヶ月に1回開催されており、職員を派遣している。また昨年は他ホームとの交換研修も実施した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談があった時には、職員が出向いて本人・家族と面接し、その後、ホームで直接内容を確認してもらい、考える時間を持ってもらっている。入居後の混乱を少しでも軽くするため、寄り添ったケアに努めるとともに、こまめに家族に報告している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護しているというよりも、一緒に生活しているという気持ちで寄り添ったケアをしており、コミュニケーションを大事にしている。料理の味付けや縫い物など、教えられることが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居後に本人・家族の意向について詳しく聞くとともに、生活歴を把握し、ケアプラン作成に生かしている。ケアカンファレンスには、家族の参加も得ている。(8家族)普段話さない方が何かを話した場合は、即対応することとしている。	○	入居前に本人や家族の意向の把握がなされていないので、初回のアセスメントシートの様式に「本人・家族の意向欄」を設けるなど、早い段階での利用者・家族の希望や意見を把握する工夫をすることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し、情報の共有化に努めるとともに、昼と夜の2本立てのケアプランを作成している。その人らしさや、その人の好みを取り入れるよう努めているが、重度化の傾向があり、職員が働きかけて斟酌しながら反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状況変化への対応は出勤職員の話し合いで臨機応変に行い、ケア統一のために記録等の確認が確実に行われるよう工夫がなされ、変更に対する家族等の確認も得ている。介護計画書の変更は月1回の職員会議で行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎・付き添い等必要に応じて対応している。また、入居者の入院等に伴う空きベッド(一時退居)を利用して、在宅者に短期入居的な対応をしている。短期入居や通所サービスを実施したい意向はあるが、当該地域での認可がないために実施できていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者はホームからほぼ10Km以内からの入居であり、基本的にはかかりつけ医の受診としている。かかりつけ医の通院では知り合いに会うことも多く、それも楽しみの一つである。夜間等の急変時には、協力病院の利用もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	比較的重度の方も受け入れており、末期だからターミナルというのではなく、ターミナルを見据えた介護に取り組んでいる。終末期のあり方について、かかりつけ医とは、通院・入院のときに話し合いをしており、家族とはその状態になったとき確認している。家族に対しては、入居後、ターミナルに関するアンケートを実施し、話し合いも継続している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各種記録類や書類はキャビネットに入れ、その都度施錠している。トイレ誘導等プライバシーに関わるケアをするときは、実名を使用しないなどの工夫をしている。	○	プライバシーに関する研修は基本的にOJTを活用しているということであるが、プライバシー尊重の意義や、その重要性について研修を実施し、意識の徹底を図ることが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールに決まったものではなく、一人ひとりの訴えや表情を読み取り、できるだけ意向を汲み取るように努力をしている。忙しすぎると影響を与えるので、ゆったりとすごせるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時間はゆったりととり、様子を見ながら声がけ等している。買い物や準備等も一緒に行っていたが、最近では重度化により、一緒にできる方が少なくなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間等についてできるだけ本人の希望に沿うようにしている。希望しない方には足浴や着替え等で対応しているが、人を代え、時間を変えて声掛けするなどの工夫をしている。夜間入浴者(7:30~9:00毎日)は3人、日中入浴(2日に1回)は6人である。入浴可否の基準は、医師と相談のうえ、個別に設定している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族中心に本人の好きなことや、入居前にやっていたことを聞き取りするとともに、ホームの生活の中で声がけ等の誘いから本人のやりたいこと等を引き出している。本人の希望を尊重して、草取りや、裁縫等行っているが、寄り添っての会話を大事にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と共に買い物に出かける機会は毎日あるが、最近では希望する方が少なくなっている。散歩にも誘っているが、介護度が高く体力の関係もあり、ホームの敷地内や近隣が中心となっている。幼稚園との相互交流や踊りの発表会等の見学、誕生日外出(狛鼻溪舟下り、外食等から選択)等を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等に施錠するのは、夜9時~朝6時までである。機械に頼りたくないのも、センサー等の設置もしていない。入居者個々の行動パターンの把握を大事にしておき、よく観察することを重視している。そして、入居者の思いを優先して、そっと付き添うケアの実践をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年4回(昼2、夜2)実施している。防災関係マニュアル・非常連絡系統図等は整備されている。非常時の備蓄については考えてはいるが、現在は準備していない。地域との協力関係は、母体の特養施設で行っており、それを利用することとしている。	○	火災関係の訓練は実施しているが、地震に関しては実施していない。宮城県沖地震の発生も予測されており、いかなる事態にも対応できるよう、地震に対する訓練も実施するなど、万全の体制を構築することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録・把握し、適切な食事になるよう留意している。母体施設の栄養士によるチェックを定期的に受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、ソファ・小上がり等があり、時計や暦も設置してある。花を飾ったり、炊事の音や匂いも感じられ家庭的である。入居者同士、入居者と職員が互いに支えあって生活できるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、作り付けのクローゼットがあり私物の持ち込み等はそれ程多くはないが、たくさんの家族等の写真が持ち込まれており、入居者の居心地のよさに配慮されている。		